

平成 19 年度第 11 回上田中央地域協議会

日 時 平成 20 年 3 月 18 日（火） 午後 3 時から 5 時

場 所 上田中央公民館 2 階第一会議室

出席委員 岡田委員、荻原委員、金子委員、河野委員、栗俣委員、小林委員、白石委員、
田口委員、那須野委員、箱山委員、林委員、前沢委員、三吉委員、山内委員

出席市側 宮下政策企画局長兼上田地域自治センター長

原沢まちづくり協働課長、鳴澤まちづくり協働課市民協働政策幹

浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐兼地
域振興係長

1 開会（浅野地域振興政策幹）

2 挨拶

（林会長）

第一期の地域協議会の開催も最後となりました。2 年間ご苦労様でございました。ありがとうございました。

お陰様で集大成といえますか、2 月 15 日に市長に意見書を提出いたしました。今日は政策企画局長がお見えになっているので、局長の方から意見書の回答が寄せられるとお聞きしています。皆さんも私も暗中模索で進めてきましたが、何とか最終段階に入ることができ、皆さんのお陰と考えております。それでは最後の会議を始めます。

（宮下政策企画局長兼上田地域自治センター長）

平成 18 年 9 月 29 日に中央地域協議会がスタートいたしました。18 年度で 6 回、そして本年度 19 年度で 11 回と、合計 17 回の会議をお願いしたところでございます。

昨年 2 月には、地域まちづくり方針をまとめていただきました。この地域の重要項目でございます 7 項目をまとめていただき、昨年の 9 月審議会におきまして、第一次上田市総合計画の中に位置付けをいたしまして、議会の議決をいただいたものでございます。また先ほどお話がございましたとおり、2 月に市長へ意見書を提出いただきました。17 回に渡ります活発な会議で、地域の課題等熱心にご議論いただきました。本当にありがとうございました。

この地域内分権という流れは、国が進めております地方分権というところから端を発しております。事務事業の地方への委譲、そしてまた財源の委譲を現在も進めておりまして、それを受ける形で市町村が地域内分権ということで取り組みを始めておりまして、その最初の取り組みが、この地域協議会の設置ということでございました。

20 年度からは地域予算の導入、そしてまたわがまち魅力アップ応援事業、そして平成

22年4月1日を目指して、自治基本条例の策定にこの4月から入ることになっています。本日の会議内容の中にもございますけれども、将来的に自分たちの地域は自分たちで考えて決定していく住民自治を目指して、取り組みをこれから強めてまいりたいという中の位置付けとして、自治基本条例の制定というものがございます。今後この地域協議会の果たす役割が非常に重要となってまいりますので、今後引き続き皆様方のお力添えをいただく中で、市といたしましても進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、委員の皆様方のご健勝、そしてご活躍を祈念申し上げまして、まずは御礼の言葉とさせていただきます。今後とも地域の発展のためよろしくお願いいたします。

(浅野地域振興政策幹)

引き続きまして、意見書の回答を政策企画局長から林会長へ申し上げます。

- 回答書提出 -

3 会議事項

- (1) 自治基本条例の制定について(報告)
- (2) わがまち魅力アップ応援事業について(報告)

(林会長)

それでは会議事項に入ります。まず自治基本条例の制定について報告でございます。よろしくお願い致します。

(原沼まちづくり協働課長)

まちづくり協働課長の原沼と申します。この一年半、皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。今日は、自治基本条例の制定につきまして報告をさせていただきます。

- 資料 自治基本条例の制定について 説明 -

(林会長)

ありがとうございました。それでは、わがまち魅力アップ応援事業について申し上げます。

(鳴澤市民協働政策幹)

今日はお忙しいところ時間を頂戴しまして、この4月から新たに始まる「わがまち魅

力アップ応援事業」について、ご説明をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

- 資料 わがまち魅力アップ応援事業について 説明 -

(林会長)

ありがとうございました。何か質問意見ございますか。

(林会長)

上田市全部で 150 万ということか。

(鳴澤市民協働政策幹)

上田市全体では、合併の際新しく造成した基金の果実を充当していくことで、約 4,000 万あり、それを各協議会に分配し進めていくという趣旨ですので、この中央地域としては 500 万程予定している。例えば一つの自治会から出てきたという時に、その自治会に対して、5 年間で 150 万ですので、30 万ずつ 5 年でもいいし、2 年間で 150 万でも結構ですが、一対象に対して 150 万ということになる。

(林会長)

例えば房山獅子、常田獅子などは、いくつもの自治会が絡むが、それはどのように申請すればいいのいか。

(鳴澤市民協働政策幹)

複数の自治会で組んでの利用も可能です。最終的な目的は、自治会活動を活発にすることにあるので、テーマを決めるのも、自治会内などで議論していただいて、自分達でコミュニティを活性化しようということになれば、そういう形でという風に考えている。

(田口委員)

民俗芸能を含めた取り組みについては、それぞれの地域、自治会で保存会を持っているため、その保存会との絡みというものも考えないと、例えばこの協議会で結論を出したとしても、保存会の考え方も入れながらでないといけないのではないかなと思う。今出された房山獅子、常田獅子に限らず、民族的な今までの流れの中で、保存会形式でやっている皆さんとよく話し合いをしながら進めていくことは、大切なことだと考えている。

(林会長)

例えば房山獅子というと、北部では 11 自治会がある。常田獅子は東部自治会の常田 4 区でやっている。地域協議会にその辺を質問してみたいと要望があった。

(鳴澤市民協働政策幹)

補足になるが、今まである事業だけではなく、そこに何かを出題して組み立ててもらうようなイメージなので、例えば桜祭りでお花見を盛大にやっているところがあったとすれば、桜の葉が秋には落ち葉になるので、子どもを集めて焼き芋大会とか、全く今ま

でと同じものをやるのではなく、広がりをもった形を工夫していくイメージを加味していただきながら、自治会、地区連合会の中で吟味していただけたら有り難い。

(白石委員)

先ほど予算年 4,000 万、うち中央地域が 500 万とあったが、約 8 分の 1 になる。上田市の人口が 16 万、この地域には 3 万人いるわけだが、人口的な分配はどのような形を考えているのか。

(鳴澤市民協働政策幹)

まず人口割を参考にするというのは基本と思う。但し、そうした場合人口の少ない協議会だと、申込みに金額が小さくなってしまうもので、4,000 万を大きく半分に分け、それぞれ均等割りということで、地域協議会が使えるものを配分し、残りの半分は人口比率で調整していくような形でいきたいと思っております。

(白石委員)

自治会といっても何十人のところから、林会長のところのように何千人のところもあり、それを同条件でやるというのは、まことに公平性に欠けるという意味で発言させていただいた。

(林会長)

100 人欠ける所もあるし、私の地域は 4,000 人超えている。4,000 人と言うと、武石地域協議会よりも大きい。またお願いをして、そういう面も見ながら研究していただきたい。

(鳴澤市民協働政策幹)

わかりずらい点もあると思う。初年度なのでどこかで出てきた場合、その事例を広報などに掲載させていただいたり、そういう PR もしていきたい。具体的にわかるような形にしていきたいと思っていますのでお願いします。

(林会長)

白石委員の意見のように、中央地域は人口が上田市の 5 分の 1 弱ある。自治会の地区連組織も 5 つあり、5 つが歩調を合わせてということもあり、その辺よろしく願います。

(3) 意見書の回答について

(林会長)

それでは(3)の意見書の回答に入りたいと思います。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

それでは私の方から意見書の回答について、説明申し上げます。

- 回答書 説明 -

(林会長)

何かご意見ありますか。

特になし

- 休憩 -

4 第一期上田中央地域協議会に参画して

(林会長)

それでは 4 番目の第一期上田中央地域協議会に参画して、ということで、一人 3 分位ご意見あるいはご感想をご披露していただきたいと思います。順番に、白石委員さんからお願いします。

(白石委員)

平成 18 年 9 月 29 日に市長に委嘱されてこの任に当たってまいりました。当初この会議の性格について、各委員の皆さんは理解するのに大変だったという風に考えております。この協議会について、私も実は自治会の地区連の会長として、上田市の自治会連合会の役員をしておりました関係で、設立以前から説明を受けたり、私共の意見を申し上げたりしながら、どういう性格であるかということは、一応理解して出席したつもりです。そのような立場で発言もし、お聞きもしてきたところです。この会の目的が、まず市長からの諮問であると、市長から意見を聴かれたときに答えを出すということが一つ、そしてこの会の委員として市に対していろいろ意見を出すというのが二つ、この意見も個人的な意見ではなく会としてとりまとまったところでというのが一つと、もう一つ調査研究するということであります。この三つが、この会の役目だということだと思えます。それを認識するのに、時間がかかってしまったわけですが、上田市総合計画の地域まちづくり方針について協議しながら、一つの方向性が出て、それが終わるころから皆さんこういうことがわかってきたという風に思っております。その中で時々出た話の中に、せっかく行政に意見を言っても聞いてもらえるのかと、今回も色々提案をしましたが、それに対してこのような回答書が来ました。条例の中でも、市長が必要と認めるときは適正な処置ということで、市長が必要と認めない限りは動かないというのがこの協議会の趣旨である、ということを当初からわかっていることが良かったのかなと、こういう風に思いながら今も反省しているところです。

私共が一番考えていることは、この協議会ではやはり上田中央地域ということで、もちろんそこに神川も参画させてもらっているわけですが、上田市の中心であるということに間違いはないと思います。神川としても、私も時には地域の代表的なことを言いましたが、これもやむをえないことで神川としても、この地域が良くならなければ上田

市は良くなならない、従って神川も一緒にそのレベルまで当然なっていくんだという信念で発言したところです。

一つだけちょっと残念だったなと思うのは、今年になって一つのテーマとして、調査研究であったという風に思っています。19年度については、諮問がありません。マスタープランについて意見を聞かれたその点だけでしたので、その中で調査研究についてアンケート方式で進めました。これは方法として多数意見からやっていくというのは常套手段で、中央地域の賑わいを取り戻すという研究テーマで進めたわけですが、これがただけけないという風には思いませんで、また違うこともあったかと思うところがあります。これからこの協議会を進めていく上で、色々な研究テーマについて、多角的なところも取り上げていただければいいなと思っております。

そして最後になりますが、この構成メンバーですが、やはり自治会長経験者、自治会長推薦ということで、自治会関係が各地区連から1名ずつということになっておりますが、やはり自治会というのはこの地域の代表といえますか、地域の会員の皆さんは住んでいる人がメンバーになるのが原則です。あの人嫌いだから入らないとか、そういうことでなく、大勢の人、どんな人も入っているのが自治会組織です。そういうところの代表者をもう少し手厚くメンバーに入れてもらえれば、よりいいのかなと思うところであり、まあ仲良しクラブではないということだけは、自治会代表として最後に申し上げて終わりたいと思います。皆さんありがとうございました。

(河野委員)

このメンバーに入った時に、中央自治連の会長を務めており、なおかつ袋町自治会長最後の年でありました。私はそういったところの代表で出たつもりでおりますが、自治会長をやっていて、どうしても住民は、行政が何をしてくれるんだ、行政はやってくれないじゃないかという意見が、地域の人たちの意識でございます。

ですから、我々1年半参加させてもらいまして、逆に我々が行政に対して、何が出来るかっていう場であったと思います。これからも自治会の中で行政にやってもらうのではなくて、市に対して我々が色んなことを、何が出来るかっていう視点に立ってものを考えていかないと、この街の賑わいを取り戻すなんてこともできないと思います。この1年半にわたり、会議に参加させてもらって、先日市長に対して意見書を出したということは、我々が上田市の行政に対してこういったことをやりますよ、といういい機会になったと思います。有難うございました。

(栗俣委員)

特に強く感じた点を簡単に申し上げたいと思います。地域を振興する主体は、地域住民であるということで、そして私共委員はやはり率先垂範の立場であるという自覚のようなものを受けたことはとても良かったかなと思っております。特に時間的制約の多い中で、なおかつ多数決で決を採るといような一般的な傾向の中で、協議という点にとっても時間を割いていただいたという様な気がします。この点は、協議会の性格から言っ

ても、今後大事にしていきたいなと思います。とりわけ様々な意見が出される中で、異論だとか少数の意見もあろうかと思いますが、そういうものにも特に注目をし、時間を掛けていただいたのではないかなと、そんな実感を持っております。これはとても良かったかなと、そういう気持ちでこれからも地域の方々とも結論を急ぐのではなく、時間を掛けて思う存分後で色んな反対意見が出ないためにも、協議ということは非常に大事ではないかなという思いでございます。もう一つは、そういった様々な意見が出され錯綜する中で、事務局の方はとても簡潔明瞭に私共の意見を集約して文章化していただいたなと思います。なおかつ、また出来たものを今回意見書に限定すれば、もう一度の見直しということで、更に時間を掛けてそれをより良く消化していただいたというようなことで、とても感謝を致しております。これからも公募でしたが、再応募させていただいて、また次回もということでございますので、この経験を生かして本当に動けるように己自身を高めていきたいとそんな風に思っております。ありがとうございました。

(金子委員)

委員を受けた時には、公民館からお話がありまして、本当に私でもいいの、いいわよという感じで受けてしまって、初めてこの会に出席させていただいた時にメンバーを見て争々たる皆さんの顔ぶれとか、皆さん意識を持ってこられているという風を感じまして、えらいところへ来てしまって申し訳ないなとそんな思いだったわけですが、会を重ねるごとに、私自身としてはとても勉強になりましたし、今上田市内を歩いていても以前とは違った目で街を見れるようになりました。またホームページも、本当に数えるほどしか見なかった私が、今は頻繁に見るようになりました。その点で意識を高めることができたという意味で本当に感謝しております。この会のために、私自身は何の役にもたたなかったような気がしますけれど、最後にこの「先人館の創設」ということに辿り着けたということに、わあすごい、やった、これで私はずっと見守って、この建設が実現できるように見守っていきたい、そんな思いにさせていただきまして、私は本当にここに出させていただいた 2 年間でこれからも大切にして、また何かお役に立てることがあったら、行政のお役にたたせていただきたいなとそんな思いでおります。本当に心から感謝しております。ありがとうございました。

(荻原委員)

この会に来て、諸先輩達の素晴らしい対応の仕方にとっても感心させられて、私自身学ばせてもらいました。ありがとうございました。

当初からこの協議会の自分自身の中でも、市における位置付けとか、何をやるのかという部分で、なかなか自分自身理解ができなくて、私は何が出来るのだろうとずっと考えておりました。最後の方になってから、何となくこの協議会はこのことをやっていくんだということがわかってきましたし、あと完璧に予算を付けるという役割があるのがわかってきてよかったなと思います。一年半取り組んだ中では、自分自身の中で

ちょっと不消化の部分があったんですけども、とにかくここに参加しなければ、ただ市は何をしてるのって、まあ変わらないからいいかで終わってしまうところが、色々な問題があってそして色々なことを決められる側にいられるというのは、とても貴重なと切に思います。そんな中で、毎回思っていたわけですが、市役所の方達がこんな丁寧にきっちりまとめてくださっているのはとてもありがたいなと思います、ここまでやってしまって、私たちが何もしないのは、おんぶに抱っこなんではないのかなという疑問も感じておりました。それと協議会が昼間だけでなく、昼だと仕事の関係で出席できない時もありますので、たまには夜開催いただけたらありがたいなって思いもあります。私の友達が他の協議会に参加しているわけですが、やはりお互いの協議会ってどんなことやっているだろうといった興味もありますので、他の協議会でやっていることとか、交流みたいなのも、時間的に大変だとは思いますが、意見調整とか、意見交換とか何らかの形で出来るといいよねっていうことを友達と話していましたので、この場で発言させてもらいます。本当にありがとうございました。

(岡田委員)

この協議会に出させていただきまして、一市民として上田市の未来を構築していくっていう会議の場所に、行政の方達のお力添えのもとこうして色々な分野でご活躍の皆さんと一緒に勉強させていただけたというそんな実感を持っており、本当に今感謝の気持ちです。そしてまた、こういう形で市の方へ素晴らしい提言ができたということは、充実感というか満足感というか、ふるさと上田先人館の設立を心待ちにしているという気持ちであります。何回かこの会でワークショップという形式があって、とてもよかったなというその感想が今も非常に残ってわけですけど、こうして口の字の会議だけではなくて、小人数的なワークショップの形を何回か入れていただきながら距離の近いところでの話し合い、協議ができればなお一層いいかなとそんな風に感じております。ありがとうございました。

(林会長)

私の感想は今日の資料に 9 協議会長の声という記事がございますが、ここに集約してありますので、割愛させていただきます。ただこの 1 年数ヶ月の間に会長として至らぬ点色々皆さんにご指示いただきまして、何とか勤めさせていただいたことに本当に御礼申し上げます。ただ一点行政にお願いしたいのは、今度二期以降についての委員の選出を少しお考え頂いて、例えばこの中央協議会の最初の 1 回だけ出席して、あとは無届で欠席という委員さんもありました。誠に残念だなという風に感じます。そんなことの無いように、選出を慎重にお考えのうえお願いをしたいと思います。もう一つ、昨年せっかく設立していただいた正副会長の連絡会議、これが 1 回だけで、連絡会の会長である宮下さんが急逝されて、その後開催していないので、今のご意見の中にもありましたが、よその協議会は何をやっているのかなあというような、よそが見えないというような点もありますので、二期以降はそういった組織も設立したわけですから、

生かしていただくようお願いをしたいと思います。あと最初申し上げましたように、9地域協議会長の声をお読みいただければ、私の意見はここに集約されておりますので、宜しくお願ひしたいと思います。

(小林副会長)

多くのいろんな各界の皆様方と知り合えたということは、まず私にとりまして大変大きな財産になったなと感じております。また普段お目にかかって、直接声を聞くということが殆どない方々と、協議会でご一緒させてもらえたということで、皆さん方の考え或いは日常の生活ぶり等々参考になりました。今回この中央協議会という組織の中に置かせていただきまして、与えられたテーマが非常に大きかったということですね。中心市街地の活性化は本当に難しい課題で、私自身どこから取り組むべきか、白石委員もおっしゃっていましたように、暗中模索という状況でございましたけれど、なんとか皆様方のご意見を集めて、ふるさと上田先人館に持ち込んでいけたということが、私にとっては大きな成果だったなという風を感じております。ただこれからのことを考えてみますと、市民協働という言葉が随所に出てきわけですが、市民協働という言葉が一人歩きしているような感じで、まだまだ地域には根付いていない。まずここに参画した我々から始めなければならぬことであろうと思ひますけれど、そういったことに対しても、できるだけ多くの機会を通じて、市民協働ということに対する必要性というものを訴えていってもらいたいなという感じがいたしました。それとこれだけ色々な意見が交わされる中で、見事に一つに文章化して、提案書にまとめていただいたというこの行政の皆さん方の努力というもの、普段色々な観点で市民から寄せられる声をどのように処理しているのかということも、本当に大変な仕事をしてくれているのだなと改めて感じる機会をいただきました。本当にありがとうございました。次なる機会にまたご縁があるかどうかは別と致しまして、もっと掘り下げたことに対して時間をかけて検討していくような機会があれば、更に私も一生懸命やらせていただこうと、こんな決意でおります。

本当に一年半皆様方と色々な話を通じて知り合えたことが最大の財産として、御礼を申し上げたいと思ひます。どうもありがとうございました。

(山内委員)

一年半前に市長より任命を受けた時から、こんな大役を受けてどうなることかととても不安で毎回会議のたびに尻込みしておりました。皆さんの協議会に対する積極的な取り組み方や、上田市全体をしっかりと把握されておられることに、自分自身恥ずかしくなりました。各地域や各自治会の問題を伺う中で、やっと少しだけ周りの様子が見えてきたところです。協議会の存在が市民にまだあまり浸透しておりませんので、提言が実行されることにより、注目されることと思ひますので、是非実現できるようお願ひしたいです。委員をやらせていただいたお陰で、広報には出ないような奥深いことなども知ることができまして、個人的にはとてもプラスになりました。やっと皆さんの顔と名前が一致するようになったところですが、これからはまた違う形で違う所で協力できるこ

とがあれば、出来る限り協力させていただきたいと思います。ありがとうございました。

(三吉委員)

私は当時南部地区連の会長をやっております、そういう形でこの協議会に参加させていただいたという風に思っております。私共の地域は、上田駅前それからJTの問題等、色々な問題があったわけですが、皆様のご協力によりまして、一つずつ整理がついていると言いましょか、そんな風に思っております。JTの問題につきましては、この中央地域協議会での立場と、やはり地元での立場というものを、私ははっきりとわきまえて参加してきたつもりであります。今回もこの協議会に参加させていただいて、3つほど今後お願いできればということをお話申し上げますが、この地域は先ほどから色々皆様のご意見にありますように、多くの課題を抱えている地域でありますし、世帯数も非常に多いと、そういう中でどのような取り組みをし、また提案したものが実現させていけるのかということが一番大きな問題です。

そういった中で、この協議会で、一つは分科会的な作業もしてみたらどうかと思えます。例えば、福祉医療関係ですとか、教育文化ですとか、或いは環境の問題、それから市街地活性化の問題とか、農業と商業との交流の問題だとか。何か幾つかのテーマがあると思うわけですが、こういった幾つかのグループに分かれて、その中の課題というものを出して行く。ただそれをまとめるのは非常に大変だと思いますが、やはり一つのことをまとめていくのもいいですが、こういう問題もある、ああいう問題もあるというのは、そういった色んな分野化して、分科会的な形にして出すのもいいのではないかなという風に思います。

もう一つは、委員の構成の件ですが、先ほど会長の方から話がありましたが、私は決して今の構成が悪いといっているわけではないのですが、やはりもう少し若い人たちが入ってもいいのではないかなと思います。極端に言いますと、この地域の大学生ですとか、あるいはまた学校のPTAの保護者、子供達に実際に現在携わっている人たちとか、そういう形も構成に入ってもらえることができればいいかなという風に思っています。そういう風になりますと、やはり開催の時間は、一番最初にもこの問題が出たと思いますが、私は夕方から夜に開催した方がいいのではないかなということで、手を挙げた方ですけど、やはりこういう若い人たちが入ってやっていくためには、時間帯は昼間だと無理だと思うわけです。確か1名若い方がおいでになったわけですが、なかなか出席できないということで、途中でお辞めになったようなことがあったと思いますが、そういう風に委員の構成を考えた場合には、やはり開催の時間を同時に考えて、できるだけ出られるような環境を作って、この協議会を進めていくということも大事なことはないかなという風に思っております。

色々とお話しましたが、皆さんに色んなご意見を聞きながら真剣に悩みましたし、非常に多くのことを学ばせていただきました。これからは自分達の生活している地域の足元からまず見つめるということが大事ではないかなと思います。小さいことかも知れ

ませんが、そういうことを非常に強く感じております。どうも色々とお世話になりました。ありがとうございました。

(前沢委員)

中央地域協議会に参加することによってたくさん勉強させていただきまして、ありがとうございました。そしてまたたくさんの宿題をいただいた気がします。明るい未来とは言えませんが、ものの見方を変え、ブレイクスルー思考で考え、信じ、夢見て行動する。自分で出来ること、行政と関わるグループ活動においても、まず一步から踏み出してみたいと思っています。本当にありがとうございました。

(箱山委員)

私も皆さんと同じように地域協議会に参加しましたら、今まで市のことは全てお任せという感じで何も知らなかったんだなということを本当に痛感いたしました。この協議会も、どういうことをやっていったらいいのか何をしたらいいのか、私もすごく戸惑いながら一年半を過ごさせていただきましたが、要望するような形ができてきて、ああこういうことをしていけばよかったんだ、ということが解ってきたところです。ここでの色々な取り組みとかまた、新たに上田市を知ることで、このまちをより大切に思って、活気のあるまちにしていきたいなって自分の意識も変わってきたように思います。まちの活性化なんていうのは、きっと商店街の人たちがやってくれるんだなんて思っていたわけですが、そこに住む私たち住民の責任もすごく大きいものだとということが分かってきました。今までファッション関係なんていうものは、外へ外へと目を向けていたわけですが、やはりこの街でなるべく探して買おうというそんな気持ちになってきました。私一人ではこういう思いもわずかな力ですが、このような機会を多くの市民の方に経験していただければ、上田に対する思いがもっと良い方向に動いてくれるのではないかなと思いました。

先人館の創設のことですけれど、やはり子供達にとっても大きな業績を残した人たちが、上田にはこんなにいると知ることによって、そこから更に歴史とか文化とか自然にも興味を示せていけるのではないかなと思って、またそういう思いがこのまちを大事にしていくっていう気持ちに変わっていくのではないかなと思いました。市も財政とか色々な要望があって大変だと思いますけれど、何とか実現できるようにお願いしたいです。私もお手伝いすることがあれば、協力させていただきたいと思っています。本当にいい勉強をさせていただいてありがたかったと思います。

(那須野委員)

私が推薦団体としてここに参加できましたのは、女と男の会、男女協働参画問題の方の推薦として来ました。団体からの推薦であって、団体へ報告をすることが一度もできなかったということが残念です。なぜ団体からの推薦というものがあるのかしら、これだったら一般公募をもっと大きくして、公募者の中からやりたいという意気揚揚の方達を推薦なさって、公募の人数がもう少し多くあって、やりたい思う市民の方達にもっと

燃え上がらせるようなことを呼びかけなければ、上田市というものはいけないのではないかと思う。団体長が全然わからなくて、その人をこの協議会に行きなさいという様なことではいけないと思います。今までも私はそういう立場にあって、無責任なことをしてきたと思いました。

それから 10 年も前になりますが、上田市の女性の模擬議会を開きましょうということ、率先して皆さんが公募したり、団体からの推薦があったりしたのですが、この協議会と同じように、最初何をどういう風に口火を切って、どういう風にやっていったらいいのか、すごく模索いたしました。その時に、私は分科会を 5 つ持ちまして、分科会の中でもって一つの分科会が調査研究してきたものを、模擬議会へ意見を持って行って広げたらどうかしらということで、それがとてもうまくいきました。それからその会はまだ解散して無いわけですが、未だに一年に一度ずつ皆さん会って意見を持ち合う会というものを継続しております。私もこの会に参加させていただきまして、少しは参画してやってきたのかなと思いますけれど、もう少し身近な問題で、青少年問題とか教育問題とか女性の問題とか、そういうようなことだったら、もっと自分の 20 年間職場関係やっていたことがもっと発揮できたのに、街となったら商店の女房でもないのだから分らないなと思いましたけれど、70 年間上田に生活しておりまして、色々自分の経験なりをここに生かしたと私は思っております。

そして、また半ばで出席できないことになるということは残念であります、全て掘り起こしてそれが完成するまではと思っておりますので、何かちょっと中途半端なような気もいたしますが、今度は地域に帰りまして、掘り起こしてやっていく使命が私には与えられているのではないかなという認識を致しました。ですから、また自分を奮い立たせて、何かしら女性なりに意見を言う場所があるのではないかと思っております、皆さんとお名残惜しいわけですが、お別れということになります。どうも色々市の関係の方ありがとうございました。

(田口委員)

この 2 年間、私も中央地域協議会のメンバーとして色々皆さん方と接していただけたことが一番私にとっては大きな財産です。

林会長と全く同じ意見、考えでございまして、実は自治会の方の仕事をやっていると、自治会長の皆さん方との話だけしか頭に入らないわけですね。その自治会長さんによって、自分が担当している地域の皆さんの意見というものは、こんなに地域協議会で議論する細かなものは出てこないわけです。そういう中で、長い間自治会長という立場で上田市自治会連合会の役員として携わってただけに、この地域協議会で各団体に推薦されてこられた方たちと、本当に細かな話から大きな話に至るまで、自分自身が経験できたというこの重みは、これからの活動にとっても参考になることだと思います。そして地域協議会本来の考え方そのものは、当初はっきり言いまして、自治会連合会の中でも議論しました。どういう方法でどのような立場でやるのかということで議論しました

ことは、先ほど白石委員がおっしゃったとおりでございます、しかしその議論の中でも実際にメンバーに携わって、そして色々な団体の皆さんと意見交換をした中で得たものというのは、本当に貴重な体験でもあるし、そしてまた今後に大きな参考になることでもございまして、私はこの地域協議会のメンバーにさせていただいたというを本当にありがたく、そして感謝をしているところでございます。今後については、この2年間色々と学んだその経験を生かしながら、これから色々な面で活用していきたいなど、こんな気持ちであります。

それから先人館の件は、何人かの皆さん方がご意見を出されたように、2年間の中央地域協議会の大きな成果でして、残せたということは大変良かったと思っています。皆さんありがとうございました。

(浅野地域振興政策幹)

お手元に本日ご欠席の竹内英一委員さんから地域協議会に参画した感想ということで、FAXが入っております。特徴的なご意見をご紹介します。「中央地域協議会の特徴ではございますが、上田市全体トータルとしての課題と地域協議会が果たすべき地域課題とが錯綜した感があった」ということをおっしゃっておりまして、これはやはり皆さんが共通して感じていらっしゃるのかなあとは思いますが、事務局としても、中央地域協議会は全市的テーマと被る場合が多いなという風に思います。また、「神川のことをもっとこの協議会の中で知っていただきたい」というような発言もいただいております。また最後には「ちょっと事務局まかせのような形になりはしないかと危惧します。意見書も委員の皆さん方が自分で書くような方向が望ましかったのではないか」。以上かいつまんだご紹介申し上げました。

(宮下政策企画局長)

ただ今ご感想、ご意見をいただきありがとうございました。今のご意見の中に、公募の人数を増やしたらどうか、というご発言がございました。私たちもそのように考えるべきものと考えております。しかしながら、今回20年度におきましては、各団体から選出された委員さんは、必ずこの協議会の内容を団体へ戻っていただいた時に、必ず報告していただきたいということ、そしてまたそこで出された意見に関しては、持ち帰ってこの協議会の中でご発言いただきたいということで、ただ単に20人の中での意見ではなく、より多くの団体の皆さんや市民の皆さんのお考えをここに取り入れてのご意見を願いますので、議会から質問がございまして、そのようにお答えをしたところでございます。

他の協議会の取り組みの紹介でございますが、この件につきましてもそのとおり、それぞれの協議会ごとに進め方も違いますし、検討している内容も違うわけですので、より多くの取り組みの方法につきまして、ご報告させていただくようなことで考えております。

先人館の関係ですが、確かに大変素晴らしい提案だと受け止めております。現在中心

市街地活性化基本計画をこの20年度に取りまとめて、国に申請したいという方向で現在取り組んでおりました、市としての考えにつきましては、3月にまとめて4月の委員会にご提出する中でまとめる方向でやっているわけですが、その中に先人館の関係も取り上げてまいりたいと考えておりますので、また内容につきまして、随時報告をしながら、ご意見を頂きながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

夜の会議の開催の件でございますが、確かにそのとおりでございます。会議の開催につきましては、他の協議会でも夜開催しているところがございますので、また新しい委員さんの中で、ご意見をいただく中でおまとめいただければと考えますので、よろしくお願い致します。

委員の構成につきまして、若い人の登用につきましては、私も地元自治会の役員をやっておりますけれど、なかなか若い方のなり手がなくて、また会議をやっても残業で来れないというようなこともございまして、役員全員が揃うことがあまり無いということも実際に見ております。若い人の登用につきましては、この協議会に入っていてご議論をしていただくということも一つの方法ではございますけれど、この協議会の中で若い人、PTAの方とか保育園の保護者の方、そういった方をお呼びして、ご意見をお聞きして、それを基に検討なさるというのも一つの方法かと思っておりますので、そういったこともまた新しい委員さんの中でご議論いただければと思います。

いずれにいたしましても、これだという型がございませんので、皆さん方で作り上げていくことがこの地域協議会でございますので、普段思っていらっしゃること、また団体の皆さんや市民の方々のおっしゃっていることなどをこの協議会でお出しただいて、先ほど少数意見についても時間を掛けてというお話もございました、この協議会の議論がより良くなりますように、今後ともよろしくお願いしたいと思います。今回お辞めになる委員さんもいらっしゃるわけでございますが、是非地域のご意見もこの中へ反映させていただけるようなことを考えて取り組んでいただければと思います。どうもありがとうございました。

(林会長)

どうもありがとうございました。皆さんのご意見伺いながら、私も共感もするし、反省することばかりで、最後にまた局長からお話をお聞きしました。今後とも、協議会がますます発展していくように、先ほども信州民報の記者の方とも話していたのですが、この協議会が上田市9つの協議会の中で、人口が3万を超えております。戸数も1万数千戸あり、自治会数も40ある。一番大きい協議会で、意見もそれぞれ出てくるし、まとめていくのも大変だという風に考えています。行政の方でも、よろしくご指導をお願いいたします。

最後になりましたが、本当に2年間至らなかった私が会長というようなことございまして、皆さんのお助けを頂きながら、今色々ご意見を拝聴して、良かったというような意見もありました。この街では、地域協議会って何だろう、あるのかと、知らない人

もあるようです。もう少しこれから浸透させていく必要があるような気がします。行政の方も宜しくお願い致します。

振り返ってみますと、至らぬ私を支えていただいて一年数ヶ月の間本当に、先ほど略して、記事に書いてあるとおりでございまして、立ち上げるまでに色々行政のほうからご相談を受けたり、自治会連合会としても、ここにおられる各地域協議会長と各地区協議会長を経験した皆さんとご協力申し上げて、中央地域協議会のスタートを切れたというそんな気がしております。皆さんにご意見をいただいて良かったなと、気持ちが一つになったなという感じもしないでもございませぬが、皆さんのお陰でなんとか第一期としての集大成をすることができました。ありがとうございました。特に小林副会長さんには、図書館に何十日も閉じこもって、先人館の資料を作っていただき本当にありがとうございました。これからますます、中央地域1万数千戸、3万数千人の中央地域協議会が、本当に地域のために発展し、行政のためにご協力申し上げられる地域協議会に発展していくことをお祈りしたい、またご協力申し上げるつもりでございませぬ。本当にありがとうございました。

5 その他

(林会長)

皆さんの方からその他で何かありますか。

(白石委員)

インターネットの掲示は、どの程度の期間行っているのか。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

ページの都合もございませぬが、今のところは第一期を消してしまうような予定はありません。お出しする資料も掲載できれば、そのような方法も検討していきたいと思っております。

(白石委員)

発言者の委員の名前を正々堂々と公開するというのはいいと思ひます。公開している協議会とそうでない協議会がありますが、中央協議会に関しては、その点常識のある話が出来たなと思ひます。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

名前の公表は、各地域協議会で決定してもらった形になっておりますので、第二期については、再度各地域協議会で決めていただくことになると思ひます。

(浅野地域振興政策幹)

皆様長時間にわたり、また今期最後の地域協議会ということで、大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。